2022(令和4)年度　聖隷クリストファー小学校学校評価書

●目指す学校像　キリスト教精神の隣人愛を基に、日本文化を理解した上で、グローバル社会に貢献できる児童の育成を目指す。

●育てたい児童像
① 奉仕活動（サービス・ラーニング）や学校活動を通して、他人を思いやる心や行動を養う。
② 一人ひとりの児童にとって、主体的・能動的な学習が成り立つ力を養う。
③ 身の回りの現象を題材にしながら、教科の枠をこえた探究学習で、探究力、思考力、コミュニケーション力や表現力を養う。
④ 母語を重視（概念や意味の構築）した上で英語イマージョン教育を行うことによって、二言語習得を目指し、多様な見方や場に応じた思考・判断ができる人材を育てる。
⑤ 主体的に学んでいく力や自信をもって挑戦していく自己効力感の高い人材を育てる。

評価：◎達成できた　○概ね達成できた　△達成できなかった・今後の課題

項目	中長期目標	今年度の目標	取組内容	評価指標	自己評価		学校関係者評価	
					評価	評価の理由	評価	評価の理由
建学の精神	児童・保護者・教員が、建学の精神である『隣人愛』を理解し、それを学校内外のすべての場で取り組むことを目指す。 また、探究・　英語イマージョンといった本校の独自性を保ちつつ、こども園・中高・大学との整合性のあるキリスト教主義学校の学びの環境を充実させる。	建学の精神及び教育理念に基づいた学校運営及び教育活動を実施する。 「BIBLE」・礼拝・キリスト教関連行事について、学校全体での計画・共通理解を図り実施する。	①聖隷学園の教育理念・キリスト教教育について理解し、実践に移すための研修を実施する。 ②宗教部を中心に礼拝・行事の年間計画を作成し、学校全体で実施する。 ③国際バカロレア（IB/PYP）教育の６つの探究テーマとの繋がりから「BIBLE」の内容やキリスト教教育を検討する。	①研修を年３回実施する(7･11･3月)。 ②児童・教職員と一緒に毎朝の礼拝担当・運営を行う。 ③キリスト教行事（花の日/収穫感謝礼拝・クリスマス・イースター等）の理解を深める学びを行う（BIBLE） ④クリスマス礼拝の意味について児童・教職員全員が理解し、祝祭としてサーラホールにて実施する。 ⑤人権擁護のセルフチェックを定期的に実施し、児童が尊重されているかを確認する。	○	①校長が主導して研修を実施しているが、対話式で行い、各教員からのフィードバックを含む研修を実施予定（3月）	○	年3回中、2回計画的に実施した。キリスト教的隣人愛の理解を深めている。
					○	②宗教部を中心に実施計画を立て、児童が司会・奏楽・聖書・聖書物語朗読を行い、皆が一緒に礼拝を作り上げている。	○	宗教部の指導下、児童が主体的意欲的に取り組み毎朝の礼拝が行われている。
					○	③BIBLEの時間の中でキリスト教行事に関する学びを実施している。	○	キリスト教行事とBIBLEの授業を繋げることにより理解を深めている。
					○	④クリスマスの集いを初めてサーラホールで実施した。担当する役割を児童が自ら選び、主体的に参加できたと考える。	◎	クリスマスの集いが計画どおり実施された。保護者会(SCESPA)の支援もあり創造的な内容の集いとなった。
					○	⑤人権擁護のセルフチェックの用紙を配布して実施した。学年末研修においても再度、確認予定であり、年２回実施となる見込み。	○	人権尊重意識の涵養を図るため、PDCAサイクルで丁寧に進めていく必要がある。
探究活動	児童が成人した後でも、創造的な発想が持てるような、活用可能な知識を養うには、小学1年生から教科の枠をこえた質の高い探究活動(学習)に取り組むことが重要であり、そのような学習環境を提供し続ける。	国際バカロレア（IB/PYP）教育の枠組みを用いての探究学習の方法の導入・環境作りを行う。 IB/PYP認定校に向けて準備（研修・実践）を進める。	① 探究プログラム（POI）における概念的な探究について、教師が理解を深め、指導計画を作成し、授業で展開する（児童の学びを促す）。	①教員の研修（PD）を月1回行う。 ②各学年の探究の単元（UOI）の指導計画作成ならびに進捗確認のミーティングをIBコーディネーターと共に毎週1回行う。 ③保護者対象研修を年2回実施する。 ④IBのワークショップを全員が受講する。	◎	①教員の研修（PD）は計画どおり実施することができた。IBコンサルタントより、教員がIBについてよく理解しているとの評価を得ることができた。	◎	計画どおり達成された。今後も計画的、継続的に効果的な教員研修が求められる。
					△	②各学年の探究の単元（UOI）の指導計画作成ならびに進捗確認のミーティングの実施については、PYPコーディネーターの担任兼務後、頻度が少なくなったが、Toddle（IB教育オンラインツール）で収集されたUOIに関連するエビデンスは十分なものであった。	△	国際バカロレア教育推進のうえで、今の時期は業務分掌の検討が重要なであると思われる。UOIの指導計画を丁寧に検討し、実践に繋げたい。
					△	③保護者対象研修はコロナウイルスの影響により実施を見合わせた。	△	研修会が実施できない場合の対応策として、ITを活用して(動画を用意するなど)の対応が必要と思われる。
					◎	④IBのワークショップは全員受講完了した。	◎	計画どおり実施された。

評価：◎達成できた　〇概ね達成できた　△達成できなかった・今後の課題

項目	中長期目標	今年度の目標	取組内容	評価指標	自己評価		学校関係者評価	
					評価	評価の理由	評価	評価の理由
児童理解	個性豊かでユニークな児童が多い本校の特徴を理解し、児童一人一人が特性を活かし学校生活を楽しくおくられるように、教員が資質・力量を高める研鑽を積み、児童理解を深めていく。	個々の特性に合わせた指導、支援ができるための体制を構築し、それぞれの児童の理解と適切な学習環境や方法を考え、実践する。	①発達支援コーディネーターを配置する。 ②必要に応じた人数の支援員を配置する。 ③発達支援の専門家（毎月訪問）からの助言や指導を生かし学習環境を改善する。 ④生徒指導委員会・ケース会議を定期的に開く。	①発達支援コーディネーターを配置し、指導体制を構築する。 ②必要な人数の支援員を配置する。 ③発達支援の専門家の訪問（毎月1回）による指導を学習環境の改善に生かす。 ④生徒指導委員会・ケース会議を定期的に開催する。（年6回）	〇	①②発達支援コーディネーターを配置し、4人の支援員が低中学年に分かれ特性のある児童の支援を行った。	◎	きめ細やかな支援･指導ができる態勢をさらに充実させたい。
					〇	③週1回のスクールカウンセラーや毎月訪問する専門家の助言が支援や学習環境の改善に役立った。	◎	スクールカウンセラーや専門家による指導助言を有効活用したことにより評価指標を上回ったと判断される。
					〇	④年２回の研修と6回のケース会議は児童理解に役立った。	◎	計画どおり達成された。
保護者会	2021年度に設立したSCESPA（聖隷クリストファー小学校の保護者会）が、自主性をもって、学校と子どもたちのために活動できる組織となるよう協力をしていく。全ての保護者により構成されるが各活動への参加は完全に自由としているSCESPAが表明した6つの基本理念（活動）の達成に向けて、連携と支援をし続けていく。	新メンバーになったSCESPAが順調に活動していけるよう執行委員会と連絡調整を密にとり連携を強化する。 研修会への参加を促す。 ワーキンググループの活動を支援する。 ①防災防犯安全 ②お手伝いボランティア ③Christopher Festival	以下の項目に関して学校が協力して進めていく。 ①本年度の組織づくりに協力する。 ②SCESPA主催の学習会を開催しSCESの考えを共有する。 ③ワーキンググループ（WG）活動を学校全体で支援する。 ④SCESPAの活動のための部屋を用意する。	①SCESPAの執行委員、クラス役員の新組織が決まり活動がスタートする。 ②学習会が開催される。 ③WGの活動をスタートし、定期的に実施する。	◎	①③今年度目標とした活動はほぼ実施することができた。引き渡し訓練、危険個所の洗い出し、お手伝いボランティアによる掃除活動、クリストファーフェスティバルと、どれも質の高い活動であった。	◎	計画どおり達成された。 SCESPAの活動と学校の活動の協働をさらに推進したい。
					◎	②SCESPA主催の学習会も学年に応じて開催することができた。	◎	計画どおり達成された。

【学校安全について】

1 登下校時の安全性確保

横断部分の安全対策を土木整備事務所に相談し、工事が完了しました。

(1) 送迎用駐車場からの道路横断

・注意喚起のカラー舗装

・文字・路側帯の色分け

・ポール設置

(2)児童の道路への飛び出し防止

・飛び出し防止ポールの設置

2 防災

(1)児童の引き渡し訓練を実施

(2)保護者と学校で災害時の引き渡し手順を確認

3 防犯

(1)不審者への対応…警察の協力を得て模擬訓練を実施